



桂文院殿中在甲

少定五好八安又院殿

少定三好八安又院殿

少、是月迄院殿元

所而、物とん併し

其、定名下看と右院殿

少、係中名安飲飲し

物ありし、中、併し

少、少、右院殿、院殿

少、少、羊、并、り、少

少、少、少、少、少、少

少、少、少、少、少、少

少、少、少、少、少、少



あつとてしにまゝに

は信得之取とるを

の中のもくを却て

有滞流吹月之に

打ちに吹ぶこつ

あつとてしにまゝに

一聞其に吹ぶ

連合を予一法野

予之南予とはは

も南公の法身

然凡しするは

中事一の法身

妙法寺の法身

此書一の古衣也し
妙走寺一の天宗也
此法信將とのあり
法印也とてをん
法考のあり
一言者於一人也
是の止宗とて中
之のありし
寺のありし
之の候あり
此のありし
唐のありし



帆足萬里書簡

帆足藏人宛

特	別
又 4	
4899	
4 (8)	





桂文院設而存生中

少定其好八安江院院

少上卷一什中嘉一物

少一月之院院元



帆足萬里書簡

帆足藏人宛



特	別
又4	
4899	
4(8)	

